

表6 TBG減少症における他の結合蛋白の検討

	Transferrin	Testosterone	Cortisol	
Control	335 ± 57 mg/dl (n=5)	300—850 ng/dl	7.9 ± 6.4 µg/dl (n=6)	} N.S.
Hypo-TBG	382 ± 32 (n=10)	330—450 (male adult) (n=4)	11.2 ± 3.4 (n=10)	

クレチン症スクリーニングの結果と
精検時における検討成績について

東邦大学医学部第一内科 入江 実
原田裕美子
兵頭 常一
坂井 由美
新妻ひとみ
江頭 友子
松戸 秀子

1979年2月より3mm Disc法でTSHを測定し、1982年12月まで312,981件スクリーニングを行った。各県別のスクリーニング数、患者数および発生頻度は静岡県149,475件中14例、1/10,668、長野県84,688件中9例、1/9,410、石川県35,977件中9例、1/3,997、千葉県42,841件中2例、1/21,421であり、石川県において発見率が高かった。全体での発見頻度は1/9,205であった。

スクリーニング時Disc TSH高値のため精査を依頼したのは70例で、結果は正常36例、クレチン症19例、一過性高TSH血症12例、一過性甲状腺機能低下症3例と正常者が約半数、クレチン症が約1/4であった。生後5～7日目のスクリーニング時Disc TSH濃度別に各々の分布を比較すると、50 µu/ml以下では正常者が19例(精査総数の27.1%)、一過性高TSH血症10例(14.3%)と多く、100 µu/ml以上ではクレチン症が14例(20.0%)と多いが、正常者の中にも100 µu/ml以上の高値を示したものが7例(10.0%)含まれていた。しかし、これらの例において新生児期の一過性甲状腺機能異常の有無については不明である。一過性高TSH血症ではDisc TSH 100 µu/ml以下であった(表1)。

つぎに、精査時の血清TSH、T₄、T₃濃度につき比較検討した。クレチン症では血清TSH 200

$\mu\text{u/ml}$ 以下では血清 T_4 値は $6\mu\text{g/dl}$ 以上を示し, TSH $200\mu\text{u/ml}$ 以上では T_4 値はほぼ $5\mu\text{g/dl}$ 以下の異常値を示した。 T_4 低値を示したものは19例中12例であった。 T_4 と TSH 値の間には $r=-0.835$ の有意な相関を認めた(図1)。 T_3 と TSH 値との間には $r=-0.761$ の相関を認めた。TSH $200\mu\text{u/ml}$ 以上でも血清 T_3 80ng/dl 以上のものもあり, 本症で T_3 低値を示したものは16例中6例であった(図2)。 T_3 と T_4 値との間には $r=0.944$ の相関を認めた(図3)。

一過性高 TSH 血症では, 血清 TSH $100\mu\text{u/ml}$ 以下, T_4 , T_3 は共に正常範囲にあった。一過性甲状腺機能低下症では TSH $61.5\mu\text{u/ml}$ と中等度上昇でも T_4 $4.6\mu\text{g/dl}$ と低値を示したものが1例あり, この例では母親が妊娠中ヨード剤を投与されており, これが原因ではないかとも考えられる(図1~3)。

以上, クレチン症の精査時甲状腺ホルモンにつき比較検討した結果, TSH と T_4 , TSH と T_3 , T_4 と T_3 ともに有意な相関を認めたが, クレチン症の約1/3では T_4 , 約2/3では T_3 値が正常範囲を示しており, TSH 測定による本症の診断は大変重要である。

表1 精査例におけるスクリーニング時 Disc TSH 濃度の分布

(1979.2-1982.12)

Disc TSH ($\mu\text{U/ml}$)	normal	primary hypo- thyroidism	transient hyper- thyrotropi- nemia	transient hypo- thyroidism	total
<50	19 (27.1)	2 (2.9)	10 (14.3)	0	31 (44.3)
50<<100	10 (14.3)	3 (4.3)	2 (2.9)	2 (2.9)	17 (24.3)
100<	7 (10.0)	14 (20.0)	0	1 (1.4)	22 (31.4)
total	36 (51.4)	19 (27.1)	12 (17.1)	3 (4.3)	70 (100)

() total に対する比率%

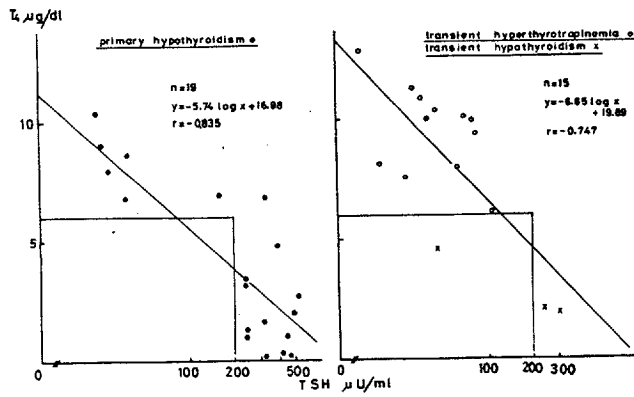


図1 精査時の血清 T₄ と TSH 値

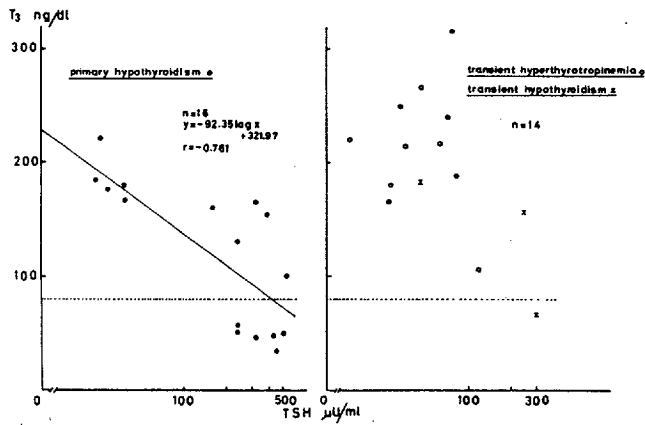


図2 精査時の血清 T₃ と TSH 値

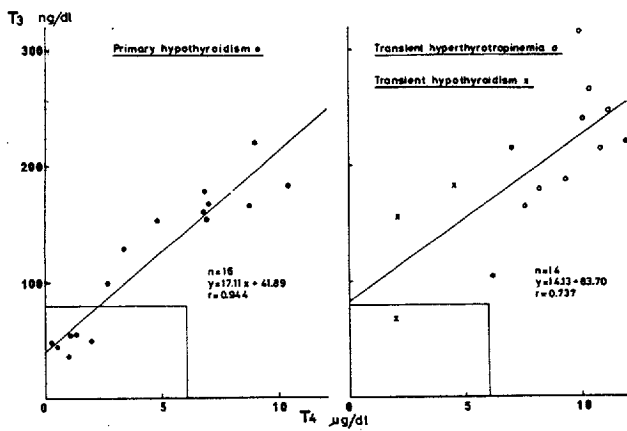
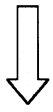
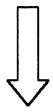


図3 精査時の血清 T₃ と T₄ 値



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1979年2月より3mm Disc法でTSHを測定し、1982年12月まで312,981件スクリーニングを行った。各県別のスクリーニング数、患者数および発生頻度は静岡県 149,475件中14例、1/10,668、長野県 84,688件中9例、1/9,410、石川県 35,977件中9例、1/3,997、千葉県 42,841件中2例、1/21,421であり、石川県において発見率が高かった。全体での発見頻度は1/9,205であった。

スクリーニング時 Disc TSH 高値のため精査を依頼したのは70例で、結果は正常36例、クレチン症19例、一過性高TSH血症12例、一過性甲状腺機能低下症3例と正常者が約半数、クレチン症が約1/4であった。生後5~7日目のスクリーニング時 Disc TSH 濃度別に各々の分布を比較すると、50 μ u/ml以下では正常者が19例(精査総数の27.1%)、一過性高TSH血症10例(14.3%)と多く、100 μ u/ml以上ではクレチン症が14例(20.0%)と多いが、正常者の中にも100 μ u/ml以上の高値を示したものが7例(10.0%)含まれていた。しかし、これらの例において新生児期の一過性甲状腺機能異常の有無については不明である。一過性高TSH血症では Disc TSH100 μ u/ml以下であった。